

集団をきたえる授業作り　く書くことを共有することでの成長く

サークルはやし　中山　誠

書くことの大切さ

高学年を持つと、いつも思うことがある。それは、書くことができる児童がすごく少ないことである。四月に作文の宿題を出すと、大半の児童が事実のみの文章である。それも一、二行しか書けない、書かない児童もけっこういる。感想が書けた児童もうれしかった、楽しかったなど表現力に乏しい。授業感想も一行で〇〇が楽しかった。〇〇が分かったである。そんな学習状況で授業が高まったり、よき学習集団になるとは思えない。かといって今まで書いてこなかった児童に書かすことは用意ではない。「書きなさい」ではもちろん通用しない。そこでまずは書くことの楽しさを教える必要があると考える。そこに集団をうまく使い、きたえることができるのではないかと考える。書くことは自分のためでもあるが人に伝えるためでもあることを意識させる

ことが必要だ。そのために三つの書く方法を紹介したい。

作文を活用して書くことの楽しさを

週に一回、土日に作文の宿題を出すようにしている。その作文を月曜日の朝読んで紹介する。月曜日の朝はほとんどの児童がやる気がなく、だらだらしている。ぼおつとしている児童も多い。どの教師も月曜日の朝はどうやって子どもの気持ちを上げていこうか考えてるはずだ。もちろんゲームや道徳や小話をして活気づけることも良く聞く。しかし友達とのつながりを意識したり、生活を知ったりする作文紹介は生活を共有できる。それだけでなく、すごく盛り上がる。最初はもちろんつたない作文が多いが、紹介していくことで、少しずつ書くことで伝えようとする児童が増える。

しかし作文を書く技術がない中では限界

がある。そこで書くための技術を教える授業を二週間に一度行い、それを作文に生かす。

授業内容

- ・書き出し
- ・題名
- ・構成
- ・表現の方法（体言止め・倒置法など）
- ・感情の表し方

ただその授業だけでは、書けるようにはならない。例えば書き出しの学習した後、書き出しを課題とした作文が宿題となるとして全員の書き出しを学級通信に載せる。そ全く意識していない文もすべて載せる。そして書き出しコンテストをする。この先を讀んでみたくなる書き出しを選んでもらい、その作文を紹介していく。それを2、3回すれば、全く書き出しを意識していなかった。児童も友達への書き出しを参考に上手になつていく。題名、感情の表し方なども同じように全員載せてよい所を評価していく。場合によっては個人で読み合いをして細かい評価もしていく。一学期間はそのサイクルを繰り返し、書くことの楽しさを経験さ

せる。そして二学期からは児童が作文を読
んで作文紹介をしていく。

学びの足跡 くノート指導く

書くことはもちろん作文だけではなく。

授業ではノートがその役割を担っている。
しかし子どもたちのノートを見ると、ただ
授業の板書を写しているものが多い。また
写している児童はいいが、写せない児童も
いる。その状況で学びの足跡になるノート
を作るのは難しい。まずはノートの書き方
指導が必要になる。

ノートに必要な項目

- ・自分の考え・調べたこと、気づき
- ・友達の考え（吹き出しなど）
- ・授業での学び（板書）
- ・学習の振り返り、感想

これらの内容を分かりやすくノートにま
とめることが学びの足跡となるノート作り
の第一歩となる。そして日々のノートチェ
ックを欠かさない。良くなった点がある児
童には一言コメントを入れる。それ以外は
五段階評価する。毎日のことなので、作業
が大変にならないように評価は簡素化して

おく。また、良いノートは学級通信や写真
にとつて提示し、全体共有する。それだけ
でなく、定期的に必要な部門を作り、ノー
トコンテストを行う。その時にただ友達の
いい所見つけをするだけでは成長はしない。
その後自分のノートに生かすことが大切な
のである。そこで友達のいい所で次のノー
ト作りに生かすことを自分のノートに一つ
書かせる。そしてそれができたノートを評
価していく。そうすればノートにプラスワ
ンが生まれる。その繰り返しでノートの質
が高まるだけでなく、書く力もついていき、
学力の向上にもつながっていく。

日々の振り返り く成長ノートく

日々の振り返りには、成長ノートを活用
している。日々の自分の成長、友達・クラ
スの成長を毎日書いていくものである。
書く内容

- ・そうじ
- ・友達のいい所
- ・学級会での話し合い
- ・生活の振り返り
- ・総合学習

書き方や量などは自由である。そのため最
初は二・三行の児童もいる。しかし、作文
やノート指導を通して書くことへの抵抗が
なくなったり、書き方が分かってくると、
書く量も質も数段アップしてくる。それを
学級通信などで紹介することで、一人一人
の思いや考え、気付きの共有にもなり、学
級経営にも生かすことができる。また書く
ことでいえば、絵や図を入れておもしろく
表現する児童やメッセーじ的に書いたり、
何ページにも渡って書き続ける児童も出て
くる。成長ノートは、自分の成長・クラス・
友達の成長を振り返り成長していくだけの
ものではなく、書くことをきたえていくツ
ールにもなる。

集団をきたえる授業作り

最後にここまで集団をきたえる方法とし
て書くことについて書いてきたが、やはり
授業の中で書くことは欠かすことのできな
い大切な活動であると考えている。書くこ
とを集団を通してきたえることで、授業の
質や、学力の向上にもつながるだけでなく、
人間形成にも大きな力となるはずだ。